

編集後記

本号は「周恩来・池田大作会見50周年記念シンポジウム」の特集号である。「対話による平和と発展」をテーマに掲げて2024年11月30日～12月1日に開催された同シンポジウムには、7カ国から138名の参加があり、6名の基調講演のほか、16の分科会において51本の発表が行われた。本号には基調講演とともに、分科会発表の中から2本を掲載している。

本号には、論文として3本を掲載した。塩原將行氏は、アメリカのジョン・F・ケネディ大統領と池田大作の間で予定されていた会談が実現しなかった経緯を検証している。岩木勇作氏は牧口常三郎の「国体」をめぐる言及について、その変遷をたどっている。また同氏による「創価教育と通信教育の歴史」は、通信教育部の設置50周年を機に同部の機関誌『学光』に掲載された記事をまとめたものである。

次に、2025年に行われた講演の中から6本を掲載した。西園寺一晃氏、小澤幹雄氏の寄稿は、それぞれ6月2日、11月3日に行われた研究所主催講演会の講演記録である。また、創価教育論の授業の一環で行われたシンポジウム「斎藤正二の牧口常三郎研究」「高崎隆治の戸田城聖研究」の記録を収録した。さらに、世界市民教育に関する国際的な学術団体ANGEL (Academic Network on Global Education & Learning) が主催する国際会議と、韓国で開催された池田大作思想学術学会での所員の発表をもとにした論考を掲載している。

中国における「池田思想」研究の動向についての報告は、本号で22回目を迎えた。2025年に開催された池田思想研究の学術シンポジウム等のほか、池田研究の成果等を紹介している。

資料紹介では前号に引き続き、「創価大学所蔵 ゲーテ重宝展」に出展された書簡について田中亮平氏に解説いただいた。また、教育雑誌『新教材集録』『新教』に収録された牧口常三郎の文章の翻刻を収録している。

おわりに、今回の紀要に原稿をお寄せ下さった諸先生方、そして紀伊國屋書店をはじめ御協力・御尽力いただいた方々に、この場を借りて篤く御礼を申し上げたい。

2026年3月 (T.S.)